優先取組課題（マテリアリティ）

デンソーは、2030年長期方針達成のために優先取組課題（マテリアリティ）を選定し、その課題解決に向けてサステナビリティ経営を加速しています。事業環境認識で想定した社会予測やSDGsを含む様々な社会課題の中から、持続可能な社会の実現のために、重要度が高くデンソーが特に貢献できる分野として「環境」「安心」「企業基盤」の3つを掲げています。事業活動を通じて各分野の目標を達成することで、2030年長期方針の実現と社会課題の解決に取り組みます。

マテリアリティとKPI

マテリアリティにそれぞれKPIを設定し、会社目標に組み込み、サステナビリティ会議（2025年度～）、および経営審議会・取締役会でフォロー・審議しています。また、一部のKPIについては、その達成度評価を役員報酬の算定指標としています。P.91–92

優先取組課題（マテリアリティ）		目指す姿	KPI		2024年度 目標	2024年度 実績	2024年度 取り組み概要	2025年度 目標	関連するSDGs
環境	地球温暖化防止◎	環境負荷の低減と高効率な移動を実現し、地球にやさしく持続可能な社会づくりに貢献します。 • 工場から排出されるCO_2排出量をゼロにします。 • クルマの電動化に貢献し、CO_2を可能な限り削減します。 • クリーンエネルギーである水素を利活用する技術によって、社会全体のカーボンニュートラルに貢献します。 • 環境負荷物質や排出物・廃棄物を削減し、地球環境の永続的な維持に貢献します。	• 工場CO_2総排出量（2020年度比） ※ クレジット活用あり		75%削減	76%削減	• 省エネ技術導入（省エネ大賞受賞） • 再生可能エネルギー導入の拡大	100%削減	
	大気汚染防止／環境負荷物質低減◎								
	資源有効利用◎		• 電動化領域製品の普及 電動化領域売上収益		9,880億円	10,100億円	• インバータ、モータジェネレータ、熱マネジメント製品など電動化製品の拡販 • デンソー福島でのインバータ生産開始（世界4極、8拠点体制）	12,000億円	
	水資源の保全								
安心	交通事故低減◎	• 「交通事故死亡者ゼロ」の実現に向け、安全製品の普及を目指します。 • 安心な空気環境のニーズに応え、快適な空間を提供します。 • 労働人口減少に伴う課題への解決に貢献する技術提供により、働く人を支援します。 • お客様に信頼され、ご満足いただける安心・安全で高品質な製品を提供します。	• 安全製品の普及 ADAS売上収益		4,900億円	5,030億円	• GSP3などADAS領域製品の拡販	5,200億円	
	自由快適な移動の提供◎								
	安心・安全な製品提供◎								
	少子高齢化への対応◎								
企業基盤	コンプライアンス	• 各国・地域の法令順守はもちろん社員一人ひとりが高い倫理観を持って公正・誠実に行動します。	• 重大法令違反件数 2025年度より重大なコンプライアンス違反件数に変更*1		0件	0件	• トップメッセージの発信／コンプライアンステスト／職場での小集団ミーティングなどコンプライアンス意識の醸成	0件	
	情報セキュリティ強化◎	• “つながる社会”における情報セキュリティ上のリスクに備え、安全で信頼性の高い製品をお客様へお届けするとともに、情報資産の保護に最善を尽くします。	• 重大事件発生件数		0件	0件	• 機密管理ルールの徹底 • 有事対応などのセキュリティ教育の実施 • ゼロトラスト前提の最新セキュリティ技術の導入	0件	
	人財活躍推進	• 社員一人ひとりが能力を最大限に発揮し、健康でいきいきと安心して働くことができるように“ヒトづくり”、“組織づくり”、“環境づくり”を推進します。 • 社員をはじめサプライチェーンなどを含むすべてのステークホルダーの人権を尊重した事業活動を行います。 • サプライヤーと共に、環境問題、人権問題、コンプライアンスなどに配慮した事業活動を推進します。	• 海外拠点長に占める非日本人		32%	32%	• 将来のリーダー候補の育成／登用 • グローバル選抜研修	35%	
			• 女性管理職 2024年度は地域別に設定		日本：2.3% アジア：29.0%　など	日本：2.2% アジア：29.4%　など	• 管理職候補の特性に合わせたメンタリングの実施 • 一般職と総合職の統合（日本）	グローバル：8.4%	
	健康／労働安全衛生		• 社員の健康スコア*2（日本） 日本以外は2025年度より各地域でKPIを設定		45%	48%	• 日本：個人通知、健康スコア説明動画や職場別集計ツールの展開など、社内啓発を推進 海外：各地域の課題に基づきKPIを設定	日本：49% アジア：アジア版健康スコア40%　など	
			• 重大災害件数		0件	0件	• 防止策の有効性レビュー（検証・現認） • 安全コミュニケーション／クロス現認活動*3などによる困りごとの吸い上げと改善、好事例の共有	0件	
	働き方改革／働きがい向上		• 社員エンゲージメント肯定回答率（前年度比） 地域別に設定		日本：+2% アジア・中国：+1% など	日本：+2% アジア：±0% 中国：+2%　など	• 日本：キャリア開発支援（上司・部下）、社内外トレーナーによる組織開発ワークショップの実施 • 海外：時間や場所にとらわれない柔軟な働き方の導入、メリハリのある評価・報酬制度への見直し	日本：+2% アジア・中国：+1%　など	
	人権の保護／持続可能な調達		• 人権研修など 地域別に設定		日本：研修受講率100%、 アジア：新入社員への研修導入　など	日本：研修受講率100%、 アジア：新入社員への研修導入完了　など	• 各地域の課題に則した研修、職場話し合いの実施 日本：ハラスメント	日本：研修受講率100%、 アジア：管理職・新入社員への研修の実施	
	ガバナンス	社会動向や外部環境変化、デンソーの企業風土などを踏まえ、必要に応じてより実効性のあるガバナンス体制へ進化させ、			上記マテリアリティの目標達成を支えていきます。				

◎ 製品・サービスを通じて貢献する目標

マテリアリティ

社会に存在する様々な課題の中から、デンソーが2030年長期方針において宣言した3つの領域「環境」「安心」「共感」において、優先して取り組むべき重要課題（マテリアリティ）を2018年度に選定しました。近年、各国で財務的影響だけでなく非財務情報の開示に対するルール化が進む中、企業にとってのマテリアリティへの関心が高まっています。そのような動向を踏まえ、2018年以降の社会課題の変化を考慮して、現在マテリアリティのアップデートを行っています。アップデートしたマテリアリティについては、次期中期経営計画の前提として据えて、全社課題として取り組みを推進します（マテリアリティの見直しプロセス P.30）。

デンソーグループ全体で取り組みを推進するため、2024年度より、女性管理職、健康スコア、社員エンゲージメント、人権について対象範囲を拡大しました。

*1. 法令だけでなく、社会規範・企業倫理の順守を対象に追加
*2. 健康スコア：BMIおよび7つの健康行動のうち、6個以上達成者率
*3. 他事業部トップなどの第三者による現場巡回

「マテリアリティとKPI」の詳細については、こちらをご覧ください。
https://www.denso.com/jp/ja/about-us/sustainability/sdgs/

マテリアリティの見直しに向けて

社会課題や事業を取り巻く環境の変化を踏まえ、デンソーでは、2018年に設定したマテリアリティのアップデートを行っています。国際社会やステークホルダーからの関心の高い社会課題を網羅的に抽出した上、“デンソーの事業活動が社会に与える影響”、“デンソーにおける重要性”の両観点から機会・リスクを洗い出し、時間軸も考慮に入れて定量的に評価を実施しました。

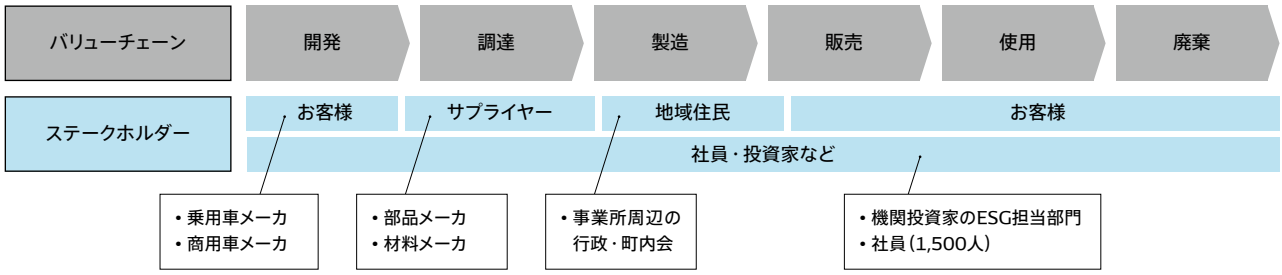
マテリアリティ案の検討においては、お客様・サプライヤー・投資家・社員・地域といったバリューチェーンを代表する主なステークホルダーとの対話を通じていただいた意見やデンソーへの期待を反映し、最終化しました。その後、経営レベルでの議論を経て、取締役会にて承認されています。現在、次期中期経営計画の前提としてマテリアリティを据えて目標を設定し、各部門・地域の活動計画を策定中です。

今後は、サステナビリティを取り巻く状況の変化を踏まえて毎年マテリアリティを見直すとともに、年に2回、サステナビリティ会議にて、各マテリアリティ達成に向けた活動進捗の確認を行っていきます。

マテリアリティの見直しプロセス

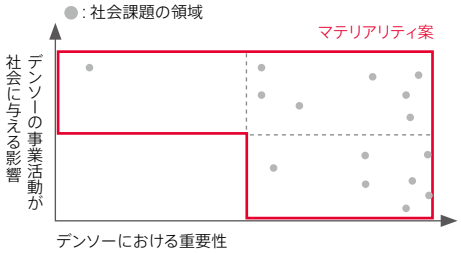
網羅性の確保	**社会課題の抽出** SDGs、ダボス会議グローバルリスク、サステナビリティ情報開示フレームワーク・法令、ESG評価機関の評価項目などを参照し、経済・環境・社会の課題を抽出。合計116の領域を評価対象とする。
デンソーらしさの反映	**自社重要戦略・課題の抽出** 事業環境の複雑化を踏まえ、全社横断で推進すべきテーマや危機対応力をレベルアップすべきテーマなど、デンソーの取り組みをリストアップ。合計22の領域を評価対象の候補に追加。
評価	**定量評価の実施** 評価対象について、デンソーにとっての機会／リスクを洗い出し、社会に与える影響、デンソーにおける重要性の両面での評価基準を設定。社会に与える影響は深刻度（規模・範囲・修復可能性）と発生可能性、企業における重要性は影響金額と発生可能性について点数付けを実施し、マテリアリティ案を設定。
社会からの期待を確認	**社内外ステークホルダーとの対話** バリューチェーンのステークホルダーを代表する方との対話を実施し、マテリアリティ案やデンソーへの期待についてのご意見をいただいた結果、3テーマの定量評価を変更。
最終化	**経営レベルでの議論・承認** ステークホルダーの意見を考慮して見直したマテリアリティ案を経営審議会・取締役会にて議論・承認。

社内外ステークホルダーとの対話



ステークホルダーからのコメント

お客様：サプライチェーン全体での人権尊重の重要性が増してきており、事業リスクとなりつつある。サプライヤーへも活動強化を要請する予定のため、デンソーにおいても優先順位を上げてリスクの最小化に向けた活動をしてほしい。

機関投資家：選定したテーマは納得性がある。今後はマテリアリティが企業価値向上にどのように結び付くのか、また、中長期の目標を明確にして発信してほしい。

マテリアリティ案の設定